

幼児の服装について (8)

東京女子高等
師範學校教授

成 田 順

だんくにお寒くなつて参りますので本月號には外套について述べます。

一般に氣候の變り目には服装について特別の注意を拂はねばなりません。が老人と子供は又格別に周圍のもの家族のものから氣をつける必要がありません。即ち寒さになりかけには急に寒さを感じますので下着を重ね或は上着を取りかへてあたゝかにします。それより次第に冬の支度に移りかへて、こゝに注意すべきことは體の寒さに慣れぬ時多くの下着を重ね次から次へ多くを着用する時は幾枚重ねても際限のないものです。それ故寒さに體が慣れて來た時幾分薄着となり下着の數を減するやうにしたいと思ひます。我國では一般に子供が厚着をして冬の間は運動はおろか動作にも不便を感じて居るやうに思はれますが此點特にお母様方にご注意願ひたいことゝ存じます。

さて外套を申しましたも種々ありますが、幼児のものとしては先づ防寒用のものが多く次は雨具として用ひらるゝものでせう。各々は使用目的によつて地質を選び形を考へたいと思ひますが何れも幼児用としては質素に且つ圖のやうな簡單なものでありたいのです。

(1) 用布の種類

防寒用 ラシヤ・メルトン・ラクダ・モヘーヤ・シール・ベ

ルベット等

雨具用 レーンコート地・防水布等

裏地用 富士絹・繻子の類、羽二重・モンパレスは上等品
です。

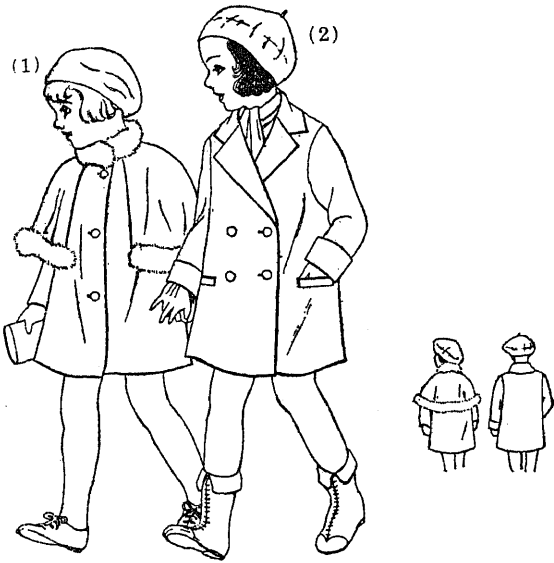
(2) 形

子供の外套は大體に於て衿ポケットに差があります。時には身頃に色々の線を入れて變化をつけるが地厚の時

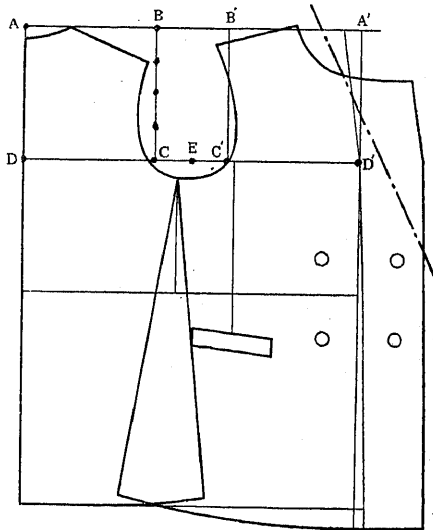
a、身頃
圖します。

(3) 型紙の裁方
には簡単にさつぱりしたデザインがよろしい。

外套の時には洋服を着た上から胸圍の寸法を取り之で製
圖します。



- 1、A B C D 及び A' B' C' D' は各々胸圍の正方形
 - 2、ゆるみ即ち B B' は七纏乃至八纏
 - 3、E 點は幅の中央即ち D D' の中央
 - 4、丈、ドレスと同様即ち身長の $\frac{5}{10}$ 位
 - 5、衿ぐり、後は横に $\frac{1}{4} \times \frac{1}{8}$ 縦に $1 \cdot 2$ 纏前は横、
縦共に $\frac{1}{4} \times \frac{1}{8}$
- 但し横へは胸ゲセー五纏を取つてから取る。
- 6、肩下り 後は B C の $\frac{1}{4}$ 、前は B' C' の $\frac{1}{8}$



- 7、肩幅 後はDEの12、前はそれより〇・五糎少く
- 8、袖ぐり D'D'線より一・五糎乃至二糎深くする。
- 9、脇の線 ウエストラインで後一・五糎前二糎ひろげる。(之は出来上り圖によつて多少斜酌する。
- 10、前の中心 圖のやうにウエストラインで〇・五糎出して斜線を引き前の中心とする。それより重りの1/2を出す。

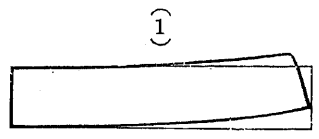
(重りはシングルの際は六糎乃至八糎、ダブルの時は一〇糎乃至一四糎位にする)。

- 11、ポケット 位置は出来上り圖にもよるがウエストラインより四糎乃至五糎下に圖のやうに取ります。大きさは普通胸圍6に致します。

b、衿

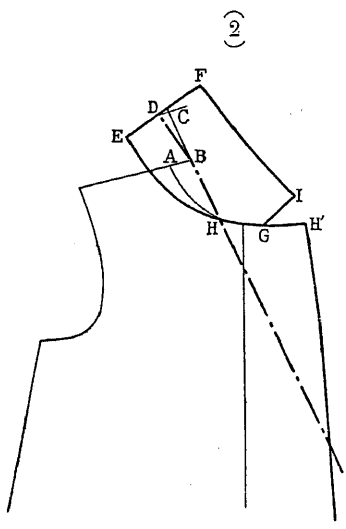
立衿 圖(1)

- 1、衿幅 四糎乃至五糎
- 2、衿附のくり幅³
- 3、前の端 圖のやうに前衿附線に直角に定める。前の衿幅は後の衿幅と同じでも少し狭くしてもよろし



折衿 圖(2)

- 1、ABは二・五糎 折返りの線を定める。
- 2、BCは後衿附丈、CBに直角線を引き。
- 3、CDは一糎、DBに直角線を引き。
- 4、DEは、四糎、衿の立つ分。
- 5、DFは五糎、衿の折返る分。
- 6、GはHH'の中央。



7. G IはGH'に等しく取る。

E H Gが身頃につく方、D B Hが衿山になる。

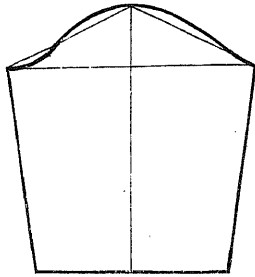
c、袖

袖は二枚裁にもするが幼児用としては一枚裁でよろしい。

1、丈 ドレスの袖丈よりも二種か三種長くします。

2、山の高さ
袖ぐり

3、袖口 (圖型) $\times 1\text{cm} \sim 2\text{cm}$ $\times 2$



4、カフスの幅は稍、

広い目に六種乃至七種にもします。

d ケープ 圖(1)

1、肩の重り 三種

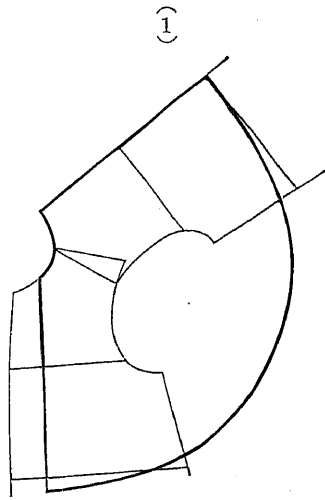
2、丈 凡そ背丈位

3、衿 適當に定め

る。

4、前の開きは中心より凡そ四種

(4) 布の裁方



表身頃は裾に四種、脇に二種、其他は一纏乃至一・五纏の縫代、裏身頃も同様であるが、裾は型紙通り、前身頃は見返しのみだけ狭く裁つ。表袖は袖口に三種其他は一纏乃至一・五纏裏袖は周圍に一纏乃至一・五纏 衿は周圍に一纏の縫代を入れて裁つ。

注意

毛並の一方に向いて居るものは何處も同じ方向に布を取るこゝが大切である。普通シル・ベルベットの類は毛並は下から上へ其他の毛織物は上から下へ向ける。

前身返し布は布の都合で途中で接いでも或は横布に取

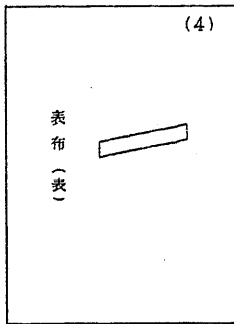
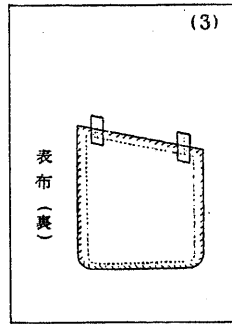
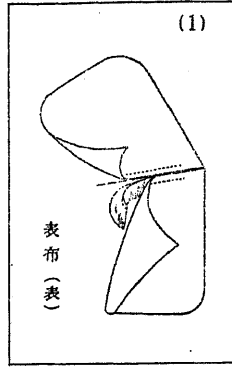
つてもかまひません。

芯は見返し・衿・袖口に入れるのですが、表地によつて考へねばなりません。子供物殊に柔かい地質の時には

天竺木綿・真岡木綿又はキャラコ位でもよろしい。

(5) 仕立方

1、前の始末



2、ポケット附

前身頃の裏側に芯布を假にこぢつけ、次に其前身頃に見返し布を合せ、衿のつく際から裾迄ミシンをかけます。縫代を整へて表に返し、斜の躰をしておきます。布地の伸び易いものは、細いテープ又はキャラコを縫目におき一緒に縫つておきます。

圖(2)の型は箱ポケットで口布は凡そ二種幅にします。

3、表の脇縫

縫目は割つておきます。地厚のものは縫目に刷毛で水をつけアイロンをかけるこよくきゝます。

4、表裾の始末

裾を折返して千鳥掛にします。

5、裏の脇縫

裏の幅がつまらないやうに縫ひ、折は後に返しても、割つてもよろしい。

6、表裏の脇さぢ

7、裏前身頃の端の始末

見返しの上に裏前身頃の端を折つてまつりつけます。
中からミシンをかけてもよろしい。

8、裏裾の始末

裏裾を表より二纏程短くして奥まつりにします。

9、肩合せ

衿ぐり・袖ぐりから凡そ四纏程はなれた所に斜の假躰をしてから肩を合せます。

表の肩を合せて縫目を割り裏の前肩を縫代にこぎつけ、後肩にのせてまつりつけます。

10、袖及び袖附

表袖口に幅五纏程の芯布をおいて假こぎをしておき、袖下を縫ひ縫目を割り、袖口を折返して端を千鳥掛にします。次に裏の袖下を縫ひ縫目を割り、裏袖を稍ゆるめに表の縫目をこぎ合せ、袖口の方は表より二纏程ひかへて折りまつりつけます。

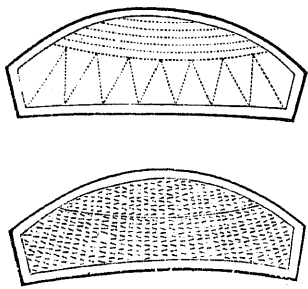
袖ぐりより七纏程はなれた所に、表裏一緒に斜の躰をしておき、次に表袖山の方を細かく縫ひ縮めて後、袖

をつけます。身頃の方は二枚一緒に假こぎをなし、山の方では袖をゆるく、下の方では袖がゆるまぬやうに注意してつけます。次に裏袖の縫代を折り、表袖と同じ釣合ミして縫目にまつりつけます。

11、衿及び衿つけ

図(1)の型は衿をつける前にケープを表裏合せて縫ひ、表に返し、身頃の衿ぐりに一緒に躰をしておきます。

次に衿の表に芯を入れて、裏ミ合せて三方を縫ひ、表衿を身頃につけ、衿附の縫代をミのへ、裏衿の端を折つてまつりつけます。図(2)の型 裏衿に芯地をの



せ次の圖のやうに衿山を境にミシンをかけるか又は八の字型にさし外廻りをアイロンで充分の

ばします。

此のさした衿ミ表衿ミを縫合せ(衿の兩端一・五厘程あけておく)縫代を細く裁ち落し表に返します。次に表衿を身頃の裏につけ、前の見返しのある部分は縫目を割り其部分に衿ぐりの縫代をこぢつけ、裏衿を身頃の表側にかがりつけます。

12、仕上げ

13、釦附及び穴かがり

出來上り圖により、釦の位置を定めて付け、穴かがりを作します。穴かがりの絹糸は蠟の中を一度通し鏝をあて、用ひるミ、擦がもごらなくて使ひ易いと思ひます。

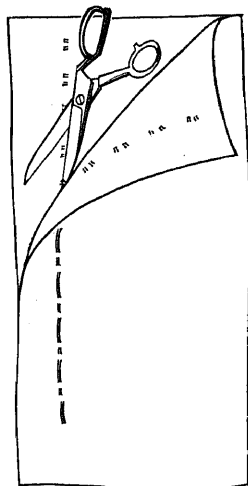
14、圖(一)の型の毛皮つけ

五厘か六厘の毛皮を、衿ミケープの周圍ミに、目立たぬやうにまつりつけます。毛皮は剃刀を用ひて裏から裁ちます。

参考

地厚物の取扱ひ

毛織物は裏から霧をふいてアイロンをかけるか、濕布



の上からアイロンをかけて後裁縫します。

標は普通三子線二本で切標を致します。

「高いねえ！ 天までミョクんだろ」

幼稚園のお山のむかふの大いてふの下へ行く道が出來た日の子供達の喜びやう。ならされたばかりの細い土がふつくりしてゐるそこへの道。そこをふんでゆくきもちよさ。そしていてふの木の下は、程よい廣さのかげです。

お山の下から眺めた大きいいてふ、繁つたいてふは、近よつてみても、なんて太くて、高くて、きもちがいゝのでせう。あそこは子供達にミつて、本當に、私にミつても、大好きなたかみのZooです。(葉つば)